

第43回「ハートミーティング」意見交換の内容について

FM（フレッシュミーティング）プロジェクト

★参加メンバーからの主な声

- FMプロジェクトでは、お客さまが利用しやすい仕組みづくり，積極的に行動するサービスの充実，地域の皆さまとのパートナーシップの推進を目指し，今年度は「京都市政出前トークの充実」及び「水道水の利用促進のためのPR」という2つのテーマを設定し，活動している。
- これまでは，自分たちには何ができるかという自分たちの行動についての議論ばかり行ってきたが，市長のお話を伺い，「自分たち（上下水道局）だけで行動するのではなく，区役所や市民を巻き込んでともに行動していく」ことが重要であることを痛感するとともに，改めてコーディネーターとしての市職員の役割について考え直すことができた。
- 絶えることなき情熱を，信念を持って一心に注ぎ込む，集中力・執念といったものが自分を，そして京都市をよりよい方向へ導くのだという考えは，自分の心にもしっかり刻みつけておかねばならないと強く思った。
- 自分の中で煮詰まっていたところに，新しい方向から考えるきっかけとなった。市長から伺った御意見やお話は，FMプロジェクトの活動だけに留まらず，今後の業務にも活かしていきたい。

★市長からのコメント

- 利用促進のPRの際、水道水とミネラルウォーターの値段や水質検査項目数について、質問を投げかけてみてはどうか。京都市の水道水の方が相当安価（ペットボトルの1/600）で、検査項目（ペットボトルの3倍となる50項目）も圧倒的に多く、答えを聞いた方は非常に驚かれると思う。言い方ひとつで聴き手の印象ががらりと変わってくるため、人をどのように引き付けたいかよく考えてほしい。
- 災害時の飲料水の備蓄については、大型貯水槽を市内各所に設置するよりも、疏水物語を各家庭で備蓄してもらった方が、コストが安く済むのではないかと。
また、他都市で何かあったときに、疏水物語などの備蓄品があれば、被災地への物品支援を行うための基盤にも成り得るのではないかと。
- 私自身も、今年の夏に節電対策として自宅で緑のカーテンを栽培したが、非常に水を使うことに気付いた。水を多く使う花の栽培や緑のカーテン、ミスト装置の利用を広めることは、水道水の利用促進につながるが、上下水道局だけでなく、区役所と連携するとともに、市民力を活かした仕組みづくりが重要である。